## 愚か者

1

いつでも笑っていたいのに
鋭いカミソリが心臓をすいと切る
歓喜に自分の存在をレテ河に沈めてしまいたいのに
ほんの小さな喜びさえも大きな哀しみ

幸福になりたいよう

2

夏が僕を蝕んでゆく
単調なセミの声が重なり合って
‘生きる時’のけだるさを音にする

僕はお前に何がしてやれるだろう
ただ、腐肉のような僕の存在と哀しみだけが
夏を通じてお前を蝕むだろうか

3

僕に親しげに寄り添っているのは‘不安’
彼は確かに僕の親友だ
彼だけがいつも僕の隣りに肩を並べてくれ
いつでも僕の意思に「やめとけ」とささやくが
僕を慰めるのもまた彼だけだ

4

シャンシャラシャンと鈴が鳴る
雨が降るたび鈴が鳴る

(1982.7.19)